

「咳」について

皆さんは「咳」のために医療機関を受診されたことはないでしょうか？「咳」(咳嗽:がいそう)は医療機関への受診理由で最も頻度の高い症状の一つとされており、わが国の一般人口における咳嗽の罹患率は 10%程度といわれています。今回は咳嗽について詳しくお話したいと思います。

日本呼吸器学会が作成した「咳嗽に関するガイドライン」では、咳嗽を持続期間によって 3 週間以内の急性咳嗽、3~8 週間の遷延性咳嗽、8 週間以上の慢性咳嗽と定義しています。急性咳嗽は急性上気道炎、急性気管支炎などの感染症が多く、咳止めなどの症状に対する治療、細菌感染に対しては抗菌薬が使用されています。ただし、肺がんや肺炎、肺結核などの重篤な病気が隠れている場合があり、ガイドラインでも診断には胸部X線検査が必要であると述べられています。

遷延性咳嗽は 3 週間以上持続する咳嗽が唯一の症状であり、胸部X線検査や肺機能検査などの一般検査では原因が特定できない咳嗽です。このため、上記の肺がんや肺炎、肺結核などは含まれません。また、8 週間以上持続する慢性咳嗽は 95%の患者さんで診断と治療が可能ですが、8 週間もの長期間にわたり治療が行われないのは現実的ではありませんので、慢性咳嗽の原因疾患が発症して 8 週間に満たない場合も遷延性咳嗽に含んでいます。

遷延性咳嗽、慢性咳嗽の原因の上位は、咳喘息(気管支喘息の一種)、アトピー咳嗽(アレルギーに伴うもの)とされており、これらの疾患は急性咳嗽とは異なった治療薬が必要となります。一方で、咳喘息やアトピー咳嗽は発症のきっかけが急性咳嗽の原因である感染症であることが多く、なかなか診断がつかないことも多いのが現状です。そのほかの原因として最近では、成人の百日咳や胃食道逆流(胃酸の逆流により、咳嗽が誘発される)なども多く見受けられます。



咳をすることは大きなエネルギーの消費となり、加えて夜間の度重なる咳は睡眠を妨げ、生活の質を大いに損ねてしまいます。さらに肺がんや肺結核などの重篤な病気の症状である可能性もあります。このため、2 週間以上も咳が続いているような方は医療機関受診をお願い致します。また医療機関を受診しているにもかかわらず、3 週間以上咳が止まらない場合には、呼吸器専門医である当院呼吸器外来への受診をお勧めいたします。

【内科診療部長 宇津木 光克】

